

炬火台用燃料のグリーンLPガスについて

両大会の開・閉会式で使用する炬火台用の燃料の一部には、古河電気工業(株)から提供されるグリーンLPガスが使用されました。

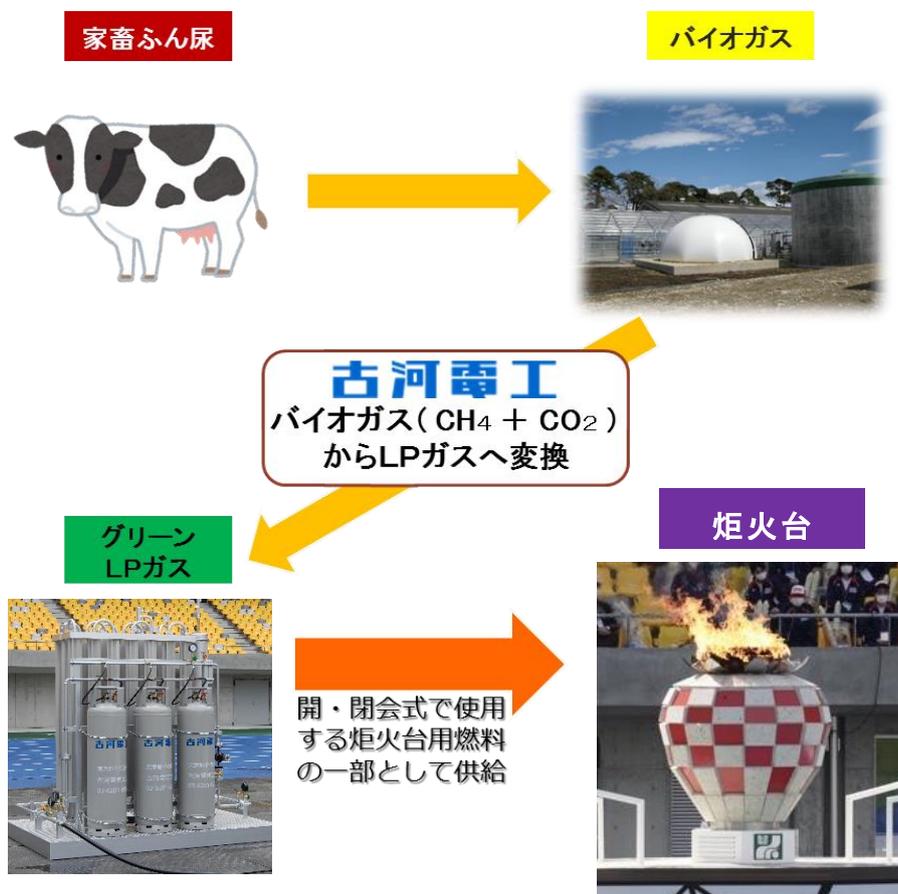
これは、栃木県畜産酪農研究センターにおいて牛のふん尿を活用して生産したバイオガスを、同社の触媒技術を用いてLPガスへと変換したものです。

▶【特徴1】環境に配慮した炬火燃料

グリーンLPガスは、家畜ふん尿を活用して生産するバイオガスが原料であることから、通常のLPガスの原料である化石燃料の使用を抑えられ、温室効果ガスの削減に寄与できます。

▶【特徴2】地産地消エネルギー

今回原料となるバイオガスは、栃木県畜産酪農研究センター内の牛のふん尿を活用して、同センターのプラントで生産したものです。地域で発生した廃棄物をエネルギー利用することで、廃棄物を減らし、地産地消・循環型社会の形成に貢献できます。



バイオガスからLPガスに変換することで、既存のLPガス用設備を利用でき、輸送や保管がしやすくなるため、使いやすくなるのも大きなメリットです。

このグリーンLPガスは、栃木県が令和4(2022)年3月に策定した、「2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」で示される取組にも合致するものです。いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会のレガシーとして、将来、持続可能な社会構築に貢献することが期待されています。